



歩く博物館

富士宮市は、数多くの文化財が点在する歴史のまちです。まちの魅力的なスポットを訪ね歩き、身近に見て・触れて・感じてみませんか。

泉地区

泉発電所～市内最初の文明の灯～ともひ

電灯照明は、明治時代の日本における文明の象徴の一つです。

明治15(1882)年に東京・銀座に灯された日本初の電灯には、連日大勢の人が見物に訪れました。

明治20(1887)年に石炭での火力発電を中心とした発電事業が始まり、その後、日露戦争後の燃料費高騰を機に水力発電へと移り変わり、1900年代には全国で多くの電力会社が設立されました。

明治41(1908)年6月、旧大宮町・旧富丘村・旧富士根村・旧吉原町(富士市)の名士らを発起人として富士電気株式会社が設立され、潤井川の水を利用した市内初の発電所となる泉発電所が建てられました。

泉発電所では、250kw/hが発電され、旧大宮町、旧吉原町(富士市)、旧今泉村(富士市)などで1,733灯を灯しました。

人々の生活を支えた泉発電所

灯油ランプやガス灯に代わる電灯は、人々の生活に大きな変革をもたらしました。『城山区誌』には、泉発電所完成の試験点灯に合わせ、神田川沿いに電線を延長して裸電球がつるされ、初めての電灯に多くの人が驚き、一時は夜店が出るほどの人出であったことが書かれています。

大正14(1925)年、富士電気株式会社は旧富士製紙会社の傍系である富士水電株式会社と合併し、その名前はなくなります。

泉発電所は、潤井川の水量が減少し、発電が十分にできなくなったことや、家庭内での電力消費量が増え、発電量が追いつかなくなつたことから、昭和38(1963)年に運転が休止されました。

昭和43(1968)年に発電所は解体されましたが、上棟式の際に建てられた「水波之売神※」の碑が、今も残されています。

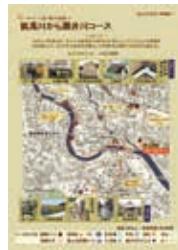
※ 日本神話に登場する水の女神

歩く博物館Gコース<泉・野中地区>
飫渴川から潤井川コース

市役所6階文化課、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。



ID 1769



泉発電所



水波之売神



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

料 500円

申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で

他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。

問 文化課 ☎22-1187

✉ e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp



問 文化課 ☎22-1187